

保育学科

幼稚園教諭二種免許状

科目名	日本国憲法			授業番号	EA203	サブタイトル	(身近な問題から憲法の役割を考える)		
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法及び他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会及び県庁における人権啓発・相談経験を踏まえて概説する。Universal Passportにより章ごとに小テストの課題を課し、その基本原理の理解及び基礎知識の定着を確認する。</p> <p>次に、基本原理等に関する憲法問題を発展学習として、学生が任意に選んだ課題解決に向けてグループで取り組む。そのグループで調査した内容をUniversal Passportで公開、講義でプレゼンして全体討議を行う。これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>								
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら、主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景及び相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うので、保育を取り巻く環境の変化など保育者に求められる幅広い知識の修得に貢献する。また、グループや全体での討議を通じて、他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業から、信頼される保育者に必要なやさしさや思いやりなど、豊かな人間性を育む基礎を身に付け、自他を尊重し、仲間との協調する態度の修得に貢献する。さらに、身近な問題から主体的に問題の解決を思考する力の修得を通じて、保育を取り巻く環境の変化やより良い保育活動をしていくうえでの課題に適切に思考・判断し主体的に解決できる能力の修得に貢献する。以上のようにこの科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた短期大学学士力の内容の<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ガイダンス、憲法とは何か 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 法律家の思考の特徴や憲法とは何かについて学修する。								
第2回	国家機関としての天皇制 1 徳川時代、大日本帝国憲法下、日本国憲法下の天皇の地位について考える。 2 国民主権主義下における国家機関としての象徴天皇制について考える。								
第3回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 1―― 非武装平和主義の採用の背景とその後について学修する。								
第4回	憲法が目指す平和を守る仕組み――平和主義 2―― 近年の安全保障をめぐる状況について学修する。								
第5回	国民主権を実現する仕組み 1 政治と国民、国会議員について学修する。								
第6回	国民主権を実現する仕組み 2 選挙、選挙制度、政党について学修する。								
第7回	人権を守るための組織――統治機構 1―― 国会、内閣について学修する。								
第8回	人権を守るための組織――統治機構 2―― 地方自治、裁判所について学修する。								
第9回	良心をもつ自由、貴く権利、中間試験 1 良心の意義について学修する。 2 教師の良心を貴く権利について考える。 3 中間試験を実施する。								
第10回	表現の自由と書かれない権利 1 表現の自由と名誉毀損・プライバシーの権利について考える。 2 表現の自由の優越的地位について学修する。								
第11回	知る権利とマス・メディアの自由、グループワーク 1 1 知る権利とマス・メディアの自由について学修する。 2 マス・メディアと国民との利害対立の調整について考える。 3 グループワーク (課題選択)								
第12回	営業の自由と消費者の権利、グループワーク 2 1 職業選択の自由、営業の自由と消費者の権利について学ぶ。 2 職業を規制することの合憲性の判断の仕方について考える。 3 グループワーク (課題分析)								
第13回	子どもの権利と学校における生徒の人権 1 学校における生徒、教師の人権について学ぶ。 2 グループワーク (情報収集、整理)								
第14回	働く人の権利、グループワーク 4 1 勤労の権利や労働基本権について学ぶ。 2 女性や非正規労働者の問題について考える。 3 グループワーク (全体討議 1)								
第15回	グループワーク 5 グループワーク (全体討議 2)								
授業計画 備考 2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	グループワークの取り組み姿勢/態度	20	各回のグループワーク終了時に提出するワークシートに、要求されているステップに沿ったグループワークの結果が書かれていること。不十分な点については、コメントを付して連絡する。						
	小テスト	20	各章の主要なポイントの理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。						
	中間テスト	20	憲法の基本原理及び基礎知識の理解及び課題に対する論理的思考を評価する。Universal Passportに解説を掲示し、全体の講評を講義で行う。						
	定期試験	40	中間テストの基礎に加え、異なる価値観・意見に配慮した主体的な意見の論理的思考を総合評価する。解説をUniversal Passportに掲示する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 2 第11回以降、任意に選択した発展学習をグループで調査・報告する。各自積極的に取り組むこと。講義時間中にスマートフォン、タブレットなどで法律情報をリサーチしたり、Universal Passportにワークシートや報告書をアップするので十分充電して講義に臨むこと。 3 中間（第9回）に1回中間テストがある。
授業外学修	1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3 グループワークで選択した課題について、インターネット等で調査し、調査した情報や講義により修得した基本原理や情報を踏まえて、各自の情報や意見を整理する。さらに、グループ報告書のまとめ、プレゼンテーションの準備に向け、共同作業のための事前準備を行う。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える	中富 公一	法律文化社	978-4-589-04140-1	2400円＋税
使用テキスト：自由記載	第2版の改訂作業中です。第2版が出版された場合、そちらを採用します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基本判例1 憲法（第4版）	右崎正博・浦田一郎編	法学書院	978-4-587-52413-5	2500円＋税
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原則から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に理解し述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、大体述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確にはないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもちた考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べるができない、または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2. 多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見の存在を並列的に述べるができる。	課題に対し、不十分なから複数の価値観・意見の存在を述べるができる。	課題に対し、複数の価値観・意見を述べるができない、または指示事項に沿っていない。
態度	1. グループワークに積極的に参加できる。	調査、質問などを積極的に行い、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し、課題内容を理解した上で、ワークシートを提出している。	グループワークに参加し、ワークシートを提出しているが、課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または、グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	情報処理概論 1クラス			授業番号	EA206A	サブタイトル	(コンピュータの基礎知識)		
教員	赤木 竜也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ、コンピュータを利用した情報処理の一端としてワードプロセッサ、表計算ソフトなどをを用いて情報処理の基本について学習する。なお、本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために、日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び、情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。								
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。								
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。								
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。								
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。								
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。								
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。								
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。								
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ、円グラフ)の作成方法について学習する。								
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。								
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。								
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。								
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。								
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。								
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ、表計算について理解・学習する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。						
	定期試験	60	習熟達成度を評価する。						
	その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため、遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は、必ず放課後等を利用して学習しておくこと。								
授業外学修	授業時間の都合上、テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため、授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み、理解度を深めておくこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN			備考		
	30時間でマスター Word&Excel2021 (Windows11対応)	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8			1100		
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN			備考		
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立鳥城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年）、県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ、情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに、適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	2. ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し、時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	3. 表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し、正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し、わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり、関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず、また正しく演算することができない。
知識・理解	4. グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し、またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し、グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが、グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	1. 正しくデータ入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分け、早く正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け、正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けられない。文字種を適切に使い分けられない。文字種を適切に使い分けられない。	文字種を適切に使い分けられない。文字種を適切に使い分けられない。文字種を適切に使い分けられない。
技能	2. ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり、操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず、また適切に操作することができない。

科目名	体育講義 (全8回)		授業番号	EA207	サブタイトル	(子どものからだと心の健康)			
教員	土田 豊								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	知っているようで知らないからだの仕組みについて講義し、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また、セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し、対処法についても学びます。								
到達目標	人間のからだの仕組みについて理解し、保育・教育の現場に出た際、子どもたちのからだの異変に気づき、適切に対処できる力を養うことを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。								
第2回	「ホルモン」のはたらきについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について、分泌の仕組みや働きについて考えます。								
第3回	「自律神経」のはたらきについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。								
第4回	「土踏まず」のはたらきについて考える 人間が、二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。								
第5回	「背筋力」のはたらきについて考える 土踏まず同様人間が、二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。								
第6回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること、健康診断では分からないことについて考えます。								
第7回	「前頭葉」のはたらきについて考える 人間の感情や記憶、想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。								
第8回	「子どものからだを元気にする方法」について考える 3泊31日キャンプが、子どものからだを元気にする理由について映像も見ながら考えます。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況の評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり、発表できたりすることを加点対象とする。						
	レポート	40	事前学習や授業で学んだことを踏まえ、自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し、具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学びのフィードバックとする。						
	小テスト	30	全8回の授業内容を踏まえ、子どものからだの心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて、得点化する。						
	定期試験								
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得									
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 「子ども」「からだの心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、情報を収集すること。 各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 授業で学んだことを日常生活で実践したり、保育現場で見聞きた子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	その都度プリントを準備する。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	学校現場や自然体験施設での経験を生かして、体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1.人間のからだと心の仕組み の理解	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてメディア、文献等 から情報取を集し、自分のから だと心の状態に重ね合わせて 理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてメディア、文献等 から情報取を集し、より深く理 解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについてある程度理解 し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや 育ちに興味を持つことができ ているが、理解したことの記述が 不十分である。	人間のからだと心の仕組みや 育ちについて理解できず、記 述もできていない。
知識・理解	2.現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題についての 理解	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題に興味や関 心を持ち、文献やインターネット で調べ、解決方法についての 自分の考えを記述することがで きている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について、文 献やインターネットで調べ、より 深く理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題についてある 程度理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について関 心を持つことができているが、 理解したことの記述が不十分 である。	現代の子どもたちが抱えている からだと心の問題について理 解できず、記述もできていな い。
思考・問題解決能力	1.からだと心の問題の解決方 法の模索	からだと心の問題に対する解 決方法について複数の視点か ら考え、具体的な方法につい て発表することができる。	からだと心の問題に対する解 決方法について複数の視点か ら考え、発表することができ る。	からだと心の問題に対する解 決方法について考え、発表す ることができる。	からだと心の問題に対する解 決方法について考えることは できているが、発表に対して消 極的である。	からだと心の問題に対する解 決方法について考えることが できず、発表することもできな い。
思考・問題解決能力	2.子どもたちと接した経験の中 での問題を把握と解決策の創 造	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について深く考 え、具体的な解決策を考え発 言することができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について深く 考え、解決策を考え発言す ることができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 え、解決策を考え発言する ことができる。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 えることはできているが、解決 策を考え、発言することが不 十分である。	子どもたちと接した経験から、 からだと心の問題について考 え、発言することができない。

科目名	体育実技 1クラス			授業番号	EA208A	サブタイトル	(適切な運動実践)		
教員	土田 豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し、チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。								
第2回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第3回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ、実際にゲームを体験します。								
第4回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第5回	バレーボールIV（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。								
第6回	バレーボールV（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。								
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第8回	バドミントンII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第10回	バドミントンIV（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。								
第11回	バドミントンV（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。								
第12回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。								
第13回	卓球II（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第14回	卓球III（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。								
第15回	卓球IV（ゲームの展開） チームに分かれ、リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別		割合		評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度		50		授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況の評価する。授業に休まず出席し、練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また、メンバーに声を掛けたり、援助などができておれば加点対象とする。				
	レポート		20		各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し、コメント入力後返却する。				
	小テスト		30		バレーボールにおいては、トス、サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。				
	定期試験								
	その他								

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。
授業外学修	1. 日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 2. 各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

その他

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無
有

担当教員の実務経験
公立小学校教諭 10年

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無
無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容
学校現場での経験を生かして、日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるように加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	2. 各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	1. チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができる。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができる。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができる。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	1. 各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができる。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	1. グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2. 活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気盛り上げようとすることが出来る。	どの種目に対しても、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	英語 A 1クラス	授業番号	EA211A	サブタイトル	(保育の英語)
教員	高坂 勝彦				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	演習
					必修・選択
授業概要	グローバル人材を育成するため、多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して、使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。				
到達目標	外国人保護者や児童を支援できる人になれるよう、基礎的な語彙・文法事項を理解し、その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき、基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考	SANSHUSHAの「保育の英語」に沿ってLesson 20まで進む (We will cover all the Lessons of "保育の英語" by SANSHUSHA)				
回	概要			担当	
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期 ・園の人々 ・園舎 ・登園 ・家族 ・室内あそび ・欠席の連絡 ・外あそび ・遊具などについての英語表現 				
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭 ・けんか ・Grammar 1 ・昼食、献立表 などについての英語表現 				
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・着替え ・おはなし ・トイレ ・お昼寝 などについての英語表現 				
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・病気 ・身体の名称 ・緊急連絡などについての英語表現 				
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の案内 ・電話連絡 ・運動会 ・動作などについての英語表現 				
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩 (1) ・地図 ・散歩 (2) ・交通などについての英語表現 				
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・お絵かき ・お手紙かき ・Grammar 2 ・Grammar 3 ・雪の日 ・工作などについての英語表現 				
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・降園 ・お知らせ ・連絡帳 ・乳児室などについての英語表現 				
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭調査書 ・園行事 ・園だよりなどについての英語表現 				
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭調査書 ・怪我や病気についての英語表現 				
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 1 ~ Lesson 5 の復習 ・Lesson 6 ~ Lesson 10 の復習 				
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・Lesson 11 ~ Lesson 15 の復習 ・Lesson 16 ~ Lesson 20 の復習 				
第13回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語				
第14回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語				
第15回	・テレビドラマや映画などを教材とした実用英語				
授業計画 備考2					
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	50	授業をよく聴き、板書の答えを教科書に書き込む。音読もできている。		
	小テスト	50	レッスンが2つ終わることの20問の単語テスト。		
	定期試験				
	その他				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1. 予習として、教科書本文に目を通し分からない単語をチェックしておく。 2. 復習として、学習した単語や熟語を暗記し、英語表現を音読するなどして身につける。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育の英語	森田和子	三修社	978-4-384-33399-2	1,900円+税
使用テキスト： 自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	辞書を毎時間携帯すること。電子辞書でも構わない。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立高等学校英語科教諭・支援学校教諭(高坂勝彦)
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者	
実務経験を いかけた教育内容	学校現場での経験を生かして、英語全般を教養として楽しく教える。また、実務経験を生かし、「保育の英語」を実践的に教える。(高坂勝彦)

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 将来の職場である保育園における園児、保護者との英語でのコミュニケーション力	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が90%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が80%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が70%できる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%にとどまる。	外国人の園児、保護者に対し園行事などの説明が50%以下しかできない。
知識・理解	2. 園児との遊び的な勉強の場面を理解し、英語で歌、手遊び、ビデオなどを使い指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使いかなり上手に指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い自分なりに指導できる。	園児に総合的な教材を理解しながら目、耳、口、手などを使い十分指導することが難しい。

科目名	教育原理			授業番号	EC101	サブタイトル	
教員	藤井 裕士						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義
						必修・選択	必修
授業概要	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などの関わり, 教育の思想と歴史の変遷, 教育の制度, 教育実践の取組, 生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について, 映像教材等を交えながら講義する。						
到達目標	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などの関わり, 教育の思想と歴史の変遷, 教育の制度, 教育実践の取組, 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に, 学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解>の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	教育の意義・目的 (1) 「どんな先生になりたいか」という問いのもと, 自身の教育観を言語化する。						
第2回	教育の意義目的 (2) 教育の意義・目的について理解する。						
第3回	乳幼児期の保育の教育の特性乳幼児期の発達や, 幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。						
第4回	教育と子ども家庭福祉の関連性児童福祉法や子育て支援等について理解する。						
第5回	人間形成と家庭・地域社会家庭, 地域社会の変化する現状について理解する。						
第6回	諸外国の教育思想フレーベルやバスターッチ等の諸外国の教育思想について理解する。						
第7回	学校教育の意義①「学校は必要か」という問いのもと, 学校教育の意義について検討する。						
第8回	諸外国の教育の歴史諸外国における公教育の歴史について理解する。						
第9回	日本の教育思想・歴史及び, 海外の教育思想国内や海外の教育思想や歴史を理解する。						
第10回	さまざまな教育実践①フレーベル理論に基づく教育について理解する。						
第11回	さまざまな教育実践②モンテッソーリ理論に基づく教育について理解する。						
第12回	さまざまな教育実践③シュタイナー教育について理解する。						
第13回	教育の意義の再考①映像教材をもとに, 教育の意義について考える。						
第14回	教育の意義の再考② 映像教材をもとに, 教育の意義について考える。						
第15回	教育にまつわる諸制度 教育に関する制度, 法律を理解する。生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。				
	小テスト	15	各回の主要なポイントの理解を, 授業後に行う小テストにより評価する。小テストは採点し, 次回の授業で返却を行う。				
	定期試験	55	最終的な理解度を評価する。				
	その他	15	発表や演習に対する意欲・態度によって評価する。				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 発表や討議に積極的に取り組むこと。 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、テキストやノート、資料を読み直す。 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ2 教育原理	矢藤誠慈郎, 北野幸子	中央法規	978-4-8058-5782-3	2200円 (税込み)
使用テキスト：自由記載	テキストを中心に講義を進めていくため、講義の際には毎回テキストを持参すること。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭 (14年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校での経験 (14年) から、乳幼児の発達、制度、教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育の基本的な意義と目的について深い理解を持ち、具体的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的について深い理解を示し、多様な教育現場での適用例を豊富に提供できる。	基本的な意義と目的を正確に理解し、一般的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的の基本を理解しているが、具体例の提供には限界がある。	意義と目的の理解が不完全で、適用例の説明が不十分。	教育の意義と目的についての基本的な理解が欠けている。
知識・理解	2. 現代の教育実践における様々なアプローチとその理論的根拠を理解し、実際の教育現場での適用例を説明できる。	現代の教育実践とその理論的根拠を深く理解し、具体的な教育現場での適用例を示せる。	教育実践と理論の基本を理解し、標準的な教育現場で適用できる。	教育実践の基本的な理解はあるが、応用には課題がある。	教育実践への理解が不完全で、具体的な適用が困難。	教育実践に対する基本的な理解が欠如している。

科目名	保育者論			授業番号	EC205	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく、保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに、学生が自らの課題を認識したうえで、保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。 ・保育者の人間性や専門性について考察し、理解できる。 ・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育者とは 保育者とはどのような人なのか、自身の目指す保育者、高めたい資質や能力について考える								
第2回	保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ								
第3回	保育者の専門職倫理と職業倫理について 適切・不適切な保育について考える								
第4回	保育者の専門性について 保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える								
第5回	保育者の役割① 子どもの遊びにおける保育者の果たす役割について理解する								
第6回	保育者の役割② 環境を通じた保育における保育者の果たす役割について理解する								
第7回	保育者の子どもの発達を捉える視点 保育者の子どもを見る視点について、事例を通して学ぶとともに、自身の子どもを見る視点を意識する。								
第8回	保育及び保育者の質の向上について、事例をもとに考える N C T (ノンコンタクトタイム) について理解する								
第9回	保育を担う組織づくり 保育実践における協働について、事例やDVD資料をもとに考える								
第10回	成長する保育者と同僚性について、同僚性の意味や重要性について学ぶ								
第11回	家庭や地域と連携・支援する保育者の役割について学ぶ								
第12回	保育者のキャリアとは 保育者のキャリア形成及び段階について理解するとともに、自身の保育者としてのキャリアプランについて考える								
第13回	現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ								
第14回	保育者の歴史や諸外国の保育や幼児教育について学ぶ								
第15回	これからの保育者に求められること これまでの学修をふまえて、今後社会から求められる保育者像、自身が目指す保育者像について考える								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲、予・復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	課題に対し、授業の要点を押さえたうえで、自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。						
	定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い、理解度を評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・予習として、授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み、疑問点を明らかにする。 ・復習として、授業を振り返り、ノートの記入、配布物資料の整理をする。 ・発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい時代の保育者論	須藤 麻紀	教育情報出版		税込み2000円
使用テキスト： 自由記載				

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤 惇也	ななみ書房	978-4-910973-06-7	税込み1200円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	幼稚園教諭として実務経験（18年）・幼児教育アドバイザーとしての経験（1年）をもつ教員が、保育現場の実際をふまえた授業を行う。			

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	ルーブリック				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 保育者の役割に関する理解	保育者像や教師観の変遷を深く理解した上で、今日の保育者に求められる役割について具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で、今日の保育者に求められる役割について具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で、今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができにくい。
知識・理解	2. 保育者の資質能力・専門性に関する理解	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について深く理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的なかつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的なかつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、自身の課題と照らし合わせながら具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で、具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性についての理解が不十分で、説明もできにくい。
知識・理解	3. 保育者の連携や協働の理解	保育者の連携や協働の重要性について深く理解し、課題等も明らかにした上で、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解し、課題等も明らかにした上で、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で、具体的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性についての理解が不十分で、具体的に説明することができにくい。
知識・理解	4. 保育者の資質向上やキャリア形成に関する理解	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について深く理解し、自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、具体的なかつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し、具体的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性についての理解が不十分で、具体的に説明することができにくい。
思考・問題解決能力	1. 課題発見能力	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて明らかにするとともに、授業で得た情報をもとに自主的に探求することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報をもとに明らかにすることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理して考えることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて、その課題及び課題解決の手立てについて、授業で得た情報を整理することができにくい。

科目名	教育心理学			授業番号	ED201	サブタイトル			
教員	平尾 太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに、保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学の基本的な概念や理論を知り、教育心理学についての知識を習得する。 ・心理学的な視点や考え方を、保育・教育の場面でいかせるようにする。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育心理学とは？ 教育心理学の意義や目的について理解する。								
第2回	子どもの発達 ピアジェの発達理論等、発達に関する諸理論を参考に子どもの発達を理解することができる。								
第3回	大人の発達 ライフサイクル理論等、発達の諸理論を参考に大人の発達について理解することができる。								
第4回	学習とは？(1) 学習理論や動機づけについて理解することができる。								
第5回	学習とは？(2) 事例を通して、学習理論の実際について理解することができる。								
第6回	頭が良いとは？ 知能について、諸理論を参考に理解することができる。								
第7回	記憶が良いとは？ 記憶の方法や忘却など諸理論を参考に記憶について理解することができる。								
第8回	性格とは？(1) 性格について、諸理論を参考に理解することができる。								
第9回	性格とは？(2) 自分の性格について知り、自己理解とともに他者理解を深めることができるようになる。								
第10回	集団とは？ 集団の力について理解し、保育現場における集団について考えることができるようになる。								
第11回	評価とアセスメント 評価とアセスメントについて、諸理論を参考に理解することができる。								
第12回	子どもの心の問題(1) 発達の課題や心身症など、子どもの発達を通してみられる心の問題について理解することができる。								
第13回	子どもの心の問題(2) 事例を通して、子どもの心の問題に理解を深めることができる。								
第14回	カウンセリングとは？ カウンセリング諸理論を通して、カウンセリングの実際に触れることができる。								
第15回	まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		20	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。						
レポート									
小テスト		25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
定期試験		55	全講義終了後、教育心理学における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。						
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	様々な気づきが得られるように、積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1. 授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（12年），医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	スクールカウンセラー（12年）でのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。施設職員の経験（3年）では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教育心理学に関する知識	教育心理学に関する具体的な知識を深く習得している。	教育心理学に関する具体的な知識を習得している。	教育心理学に関する知識を習得している。	教育心理学に関する知識の習得が不十分である。	教育心理学に関する知識が習得できていない。
態度	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、教育心理学の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。教育心理学の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できていない。
態度	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	教育相談	授業番号	ED207	サブタイトル	
教員	藤井 裕士				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義
					必修・選択
					選択
授業概要	教育相談・カウンセリングの理論と方法、基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。				
到達目標	子どもの発達への援助、保護者への子育て支援の重要性やカウンセリング・マインドの大切さを理解し、子どもや保護者に対する基本的な応答の仕方を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	教育相談とは 教育相談の全体像について理解する。				
第2回	カウンセリング・マインド カウンセリング・マインドについて演習を通して理解する。				
第3回	保育場面でのカウンセリング技法の活用 (1) カウンセリングの基礎理論を、演習を通して理解する。				
第4回	保育場面でのカウンセリング技法の活用 (2) カウンセリングの基礎理論を、演習を通して理解する。				
第5回	保育場面でのカウンセリング技法の活用 (3) カウンセリングの基礎理論を、演習を通して理解する。				
第6回	保育者の自己理解 文章完成法、HSPチェックリスト等を用いて自己理解を行う。				
第7回	保育者のメンタルヘルス 保育者自身のメンタルヘルスについて理解し、ストレスの軽減方法を知る。				
第8回	基礎的対人関係 (1) 基礎的対人関係について理解し、演習を行う。				
第9回	基礎的対人関係 (2) 基礎的対人関係について理解し、演習を行う。				
第10回	保護者への対応 (1) 面談場面での保護者対応について演習を行う。				
第11回	保護者への対応 (2) 気になる子どもの保護者の対応について演習を行う。				
第12回	保護者への対応 (3) 発達障害などの気になる子どもの保護者の対応について演習を行う。				
第13回	園・地域における専門家との連携による相談・支援 園・地域における専門家や社会資源について理解し、それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。				
第14回	事例検討 (1) 事例を基に、検討会を行い教育相談の在り方を理解する。				
第15回	事例検討 (2) 事例を基に、検討会を行い教育相談の在り方を理解する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
種別	割合	評価基準・その他備考			
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業への取り組み姿勢、受講態度によって評価する。			
意欲	30	演習への参加意欲・態度、振り返りシートへの記述状況から評価する。			
試験	55	最終的な理解度を評価する。			

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 事前・事後に参考文献等を読むこと。 2 発表や討議に積極的に取り組むこと。 3 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、配布された資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から、子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。			

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	教育相談の目的,カウンセリングの基本理念や方法に関して理解できたか。	教育相談に関する理論,方法,実践例について豊富な知識を持ち,具体例を交えて深い理解を示せる。	基本的な理論や方法は理解しており,実践例を挙げて説明できるが,Aレベルほどの詳細さはない。	教育相談の基本的な理論や方法については理解しているが,具体例の使用が限定的。	基本的な理論や方法の理解に不備があり,実践例を適切に用いることができない。	教育相談の基本的な理論や方法についての理解が不足している。
技能	具体的な教育相談の事例を分析し,適切な対応策を立案できるか。	相談者のニーズを正確に理解し,効果的な支援計画を立案・実施できる。高度なコミュニケーション能力を示す。	相談者のニーズを理解し,適切な支援計画を立案・実施できるが,Aレベルほどの洞察力や創造性はない。	基本的な相談技能は持っているが,複雑なケースに対する対応には限界がある。	相談技能の基本は理解しているが,実践の際に不十分な面が見られる。	相談技能が不足しており,相談者のニーズに適切に対応できない。

科目名	教育・保育課程論		授業番号	EE201	サブタイトル				
教員	藤井 裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	必修
授業概要	幼稚園における教育課程, 保育所における全体計画の編成, 実施, 評価, 改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容, また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成, 実施, 評価, 改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。								
到達目標	幼稚園における教育課程, 保育所における全体計画の編成, 実施, 評価, 改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容, また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成, 実施, 評価, 改善の基本的な考え方や内容等を知り, 指導計画等を自分なりに作成できる。 なお, 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	めざす子ども像 理想のめざす子ども像を考え,意見交換を行う。								
第2回	めざす子ども像を共有する理由 めざす子ども像を保育者間で共有する理由について知る。								
第3回	教育課程・全体的な計画について 教育課程や全体的な計画について理解する								
第4回	教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上で必要なこと 教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上での留意事項を理解する。								
第5回	教育課程の編成から長期・短期の指導計画へ 教育課程の編成から長期指導計画,短期指導計画へのつながりを理解する。								
第6回	指導計画の実践 指導計画の実践と改善について理解する								
第7回	カリキュラム・マネジメントの具体 附属こども園の事例を中心に,先行事例からカリキュラム・マネジメントの具体例について知る。								
第8回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討① 理想のめざす子ども像を実現する,理想の園の条件を考える。								
第9回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討② 理想のめざす子ども像を実現する,理想の園の条件をまとめる。								
第10回	理想の園の指導計画の作成① めざす子ども像との関連に焦点化し, 個人で指導計画(日案or部分指導案)のねらいや内容を設定する。								
第11回	理想の園の指導計画の作成② めざす子ども像との関連に焦点化し, 個人で指導計画(日案or部分指導案)のねらいや内容を設定する。								
第12回	理想の園に関する発表に向けて 発表に向けた資料作成を行う。								
第13回	発表・意見交換① めざす子ども像と指導計画の関連性を示しながら, 発表・意見交換を行う。								
第14回	発表・意見交換② めざす子ども像と指導計画の関連性を示しながら, 発表・意見交換を行う。								
第15回	まとめ 教育課程,全体的な計画の編成と実践,評価への一体的な取組について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。						
	レポート	50	提出された課題から, 授業内容が理解できているか, 自身の考えを表現できているかを評価する。(課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする)						
	発表	10	グループ発表・意見交換への参加や態度によって評価する。						
	その他	25	事例検討や演習に積極的に参加し,意見を出しができるかを評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	1 事前・事後に参考文献を読むこと。 2 課題について追究したことや自分の考えをまとめ、レポートを書くこと。 3 発表や討議に積極的に取り組むこと。 4 配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として、配布された資料のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	特別支援学校幼稚園部（10年）での経験を基に、具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 教育・保育課程を計画、実施、評価、改善する過程での基本的な考え方や手法を理解している。	教育・保育課程の基本理念、目的、内容について深い理解を示し、具体的な例を用いて複雑な概念を説明できる。	基本理念や目的は正確に理解しており、内容についても具体的な知識があるが、Aレベルほどの深い洞察は示せない。	基本的な理念、目的、内容の理解があり、簡単な説明ができるが、深い分析や批判的な考察には至らない。	理念や目的の理解に誤解が見られ、内容についての知識も表面的である。	教育・保育課程の基本理念や目的の理解が不足しており、重要な内容についての知識がほとんどない。
知識・理解	2. めざす子ども像の達成を意識した指導計画を作成することができる。	めざす子ども像に基づいた包括的かつ創造的な指導計画を作成。計画は具体的、実践的であり、多様な学習ニーズに応える。	めざす子ども像を適切に理解し、それに基づく実践的な指導計画を作成。しかし、Aレベルほどの詳細さや創造性はない。	めざす子ども像の達成に向けた指導計画を作成できるが、応用や多様性に欠ける場合がある。	指導計画には目標が含まれているが、計画の具体性や実践性に不足。めざす子ども像の達成に必要な要素が欠けている。	めざす子ども像に対する理解不足から、適切な指導計画を作成できない。計画には目標の達成に向けた具体的な方策が不足している。
思考・問題解決能力	1. 与えられた目的や条件の下で、効果的な教育・保育計画を立案できる。	実践的な課題に対して独自の解決策を提案し、その実施計画を詳細に立案できる。批判的思考と創造性を見せる。	具体的な課題に対して適切な解決策を提案でき、その実施についても計画を立てることができるが、Aレベルのような独創性はやや欠ける。	一般的な問題解決のアプローチを理解しており、基本的な解決策を提案できるが、複雑な問題に対する深い洞察には至らない。	問題解決のアプローチが一部理解できているが、具体的な計画立案や実施の方法に誤りがある。	問題を認識することはできるが、効果的な解決策の提案や計画立案ができない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	EE202A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また、保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。								
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている、園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。								
第2回	子どもの遊びを分析して、どのような経験しているのかを話し合う。								
第3回	教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。								
第4回	環境構成を分析して、物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。								
第5回	要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。								
第6回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。								
第7回	支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。								
第8回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。								
第9回	活動を分析し、保育の多様な展開について具体的に学ぶ。								
第10回	教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。								
第11回	教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。								
第12回	運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。								
第13回	「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。								
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する。								
第15回	模擬保育をグループで実施する。								
授業計画 備考2									

評価の方法	種別			割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度			10	意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。	
レポート			10	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。	
小テスト					
定期試験			80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。	
その他					

評価の方法：	自由記載				
受講の心得	テキストをよく読み、内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので、積極的態で受講すること。 講義を通して、少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。				
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおく。疑問点を明白しておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。				

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	240円
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81448-2	320円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81449-9	350円
使用テキスト：	自由記載			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみたい」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久・清水憲志・福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	1,650円
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也・山本房子・請川滋大	ななみ書房	978-4-910973-06-7	1,320円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて保育の内容を理解できている。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	2. 乳幼児の発達に即した保育内容の基本的な考え方を理解できている。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について具体的に考えることができる。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない。
知識・理解	3. 環境を通して行う保育の内容を理解できている。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について具体的に考えることができる。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない場合がある。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない。
知識・理解	4. 生活や遊びによる総合的な保育の内容を理解できている。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	5. 家庭や地域等との連携をふまえた保育のあり方を理解できている。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について具体的に考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない場合がある。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない。
知識・理解	6. 小学校との連携や接続をふまえた保育のあり方を理解できている。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について具体的に考えることができる。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。

科目名	(保育内容)健康 1クラス		授業番号	EE203A	サブタイトル				
教員	土田 豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	乳幼児期の発育発達過程や個人差に合わせた支援の必要性や、現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し、乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。								
到達目標	現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し、その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	領域「健康」とは子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら、客観的かつ具体的に把握する。								
第2回	「幼児期における運動遊びの必要性」なぜ、幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。								
第3回	「運動遊びと健康(1)」集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して、子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。								
第4回	「運動遊びと健康(2)」身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して、子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。								
第5回	「運動遊びと健康(3)」サーキット遊びを通して、子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。								
第6回	「運動遊びと健康(4)」リバーシーゲームの体験を通して、楽しく体を動かすことの大切さを理解する。								
第7回	「運動遊びと健康(5)」ボールを使ったサーキット遊びを通して、物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。								
第8回	「運動遊びと健康(6)」伝承遊びの体験を通して、伝承遊びで高められる力について理解する。								
第9回	「運動遊びと健康(7)」いろいろな玉入れ遊び体験を通して、遊びのパリエーションの広げ方について理解する。								
第10回	「運動遊びと健康(8)」いろいろな陣取り遊び体験を通して、遊びのパリエーションの広げ方について理解する。								
第11回	「運動遊びと健康(9)」大型かるたとり遊び体験を通して、遊びのパリエーションの広げ方について理解する。								
第12回	「模擬保育 運動会の計画と準備」保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容、役割分担等について計画する。								
第13回	「模擬保育 運動会(1)」自分たちが計画した運動会を実践し、振り返りを含めて今後に生かせるようにする。								
第14回	「模擬保育 運動会(2)」自分たちが計画した運動会を実践し、振り返りを含めて今後に生かせるようにする。								
第15回	「家庭との連携・まとめ」運動遊びの必要性について園での取り組みに加え、家庭との連携の仕方について考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組みしていない場合は、減点対象とする。一方、授業中の発表やグループ内での発表状況等、積極的な言動が確認できた場合は、加点対象とする。						
	レポート	30	授業で体験したことを踏まえ、実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で、子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合、内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	50	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して、模擬保育を実施し、その理解度や保育への展開具合を得点化する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・運動着を着用する ・室内用シューズを履く ・貴重品は自己管理する ・装飾品は身につけない（髪は結わせる） ・全員協力の上、準備・片付けをする ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり、新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。 ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して、保育現場で行われている運動遊びについて、対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。 ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め、指導案として反映できるようにすること。 <p>以上の内容を、過当たり1時間以上学修すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	978-4-904011-47-8	1300
使用テキスト： 自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小学校教諭 10年			
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内容	学校現場での経験を生かして、幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 運動習慣づくりの重要性	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性について、発達の観点から十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを発言することができる。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性をある程度理解できているが、その解決策について考え、発言することができていない。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性が理解できず、発言もできない。
知識・理解	2. 幼児期に経験することが望ましい運動	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、授業の中で実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて授業を通して、ある程度理解し、様々な運動に興味を持って実践することができる。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについてある程度理解できているが、自らからだを動かすことに対する興味を持つことができていない。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについての理解ができず、自らからだを動かすこともできていない。
思考・問題解決能力	1. 現代の子どもたちの運動環境や実施状況の改善策	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして十分理解し、自分の考えも持ち合わせている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について、授業やメディア、文献等から情報を集めるなどして概ね理解できている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通して概ね理解し、情報収集もできている。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について授業を通してある程度理解できているが、進んで情報収集することができていない。	現代の子どもたちの運動環境や実施状況について理解できず、情報収集もできない。
技能	1. 身の回りにある遊具や道具を活用した運動遊びの創造	身の回りにある遊具や道具を活用し、子どもたちが意欲的に取り組むことができる環境を考えながら、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用し、自分なりのアレンジを加えながら、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができる。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践しようとしているが、行動に写すことができていない。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができていない。
技能	2. 子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びの創造	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、興味関心を引き出す手立ても考えながら、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、動きも想像しながら、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、運動遊びの難易度調節ができています。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて運動遊びを考えるとできていない。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて運動遊びを考えるとできていない。
態度	1. グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	(保育内容) 人間関係 1クラス			授業番号	EE204A	サブタイトル			
教員	福澤 惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	現代社会と幼児の人間関係								
第2回	家庭や地域の人間関係								
第3回	3歳未満児における人間関係の発達（1）								
第4回	3歳未満児における人間関係の発達（2）								
第5回	幼児期の遊びや生活の中で見られる人と関わる力の育ち								
第6回	幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ち								
第7回	乳幼児期の自立心の育ち（1）								
第8回	乳幼児期の自立心の育ち（2）								
第9回	幼児期の協同性の育ち（1）								
第10回	幼児期の協同性の育ち（2）								
第11回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（1）								
第12回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（2）								
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり								
第14回	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり								
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度									
レポート		10	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、次回の講義冒頭で解説を加える。						
小テスト									
定期試験		90	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。						
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	テキストや配付資料についてはよく読み、内容を把握し、授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育と人間関係―理論と実践をつなぐために―	柏まり・小林みどり	嵯峨野書院	978-7823-0621-5	2,475円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。			

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育者と幼児の人間関係について理解できている。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	2. 保育者と保護者の人間関係について理解できている。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	3. 幼児同士の人間関係について理解できている。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について具体的に考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない場合がある。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	4. 幼児と保護者の人間関係について理解できている。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について具体的に考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない場合がある。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	1. 適切な言葉の活用ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を十分示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない場合がある。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない。
技能	2. 手遊びや手話歌の実践ができる。	その場の雰囲気や文脈に沿う手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等の音程やリズムが曖昧なまま実践している。
技能	3. 対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。

科目名	(保育内容) 環境 1クラス		授業番号	EE205A	サブタイトル				
教員	清水 憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例、ビデオ視聴、保育現場の観察、ネイチャーゲーム等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり、それを生活に取り入れていくことを養うための保育の展開について学び、指導力・実践力を身につけることを目指す。								
到達目標	子どもと環境とかかわりや子どもの育ちを理解し、具体的な保育の環境のあり方とその考え方、教師の援助のあり方について学ぶことで、環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育と環境 …保育における環境の意味を理解しよう。								
第2回	領域「環境」の捉え方と考え方 …領域「環境」について考えてみよう。								
第3回	保育環境の構成 …環境を構成する理由を知ろう。								
第4回	人的環境について …人的環境の意味を知ろう。								
第5回	豊かな生活を育む環境をデザインする …様々な環境（自然）を知ろう。								
第6回	泥団子を作ろう …泥団子を作って楽しもう。								
第7回	泥団子を極めよう …泥団子の理論を理解して、実践してみよう。								
第8回	ごっこ遊びについて …ごっこ遊びの重要性を知ろう。								
第9回	遊びにかかわる指導を考えよう …指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。								
第10回	生き物や植物、自然の事象に関心を持つ食育、栽培活動について …食育及び栽培計画を作成しよう。								
第11回	作品展について …子どもの色々な作品を見て、感性を磨こう。								
第12回	フォトブック鑑賞会 …それぞれが作ったフォトブックを見ながら、感性を高めよう								
第13回	砂・水遊びの指導を考えよう(1)理論編 …砂・水遊びの意味を知り、計画してみよう。								
第14回	砂・水遊びの指導を考えよう(2)実践編 …水遊びを実践してみよう。								
第15回	子どもを守る安全な環境について …保育における安全な環境について考えよう。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他	30	フォトブックの作成（自然物）						

評価の方法： 自由記載	<p>フォトブックについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真10枚以上（10種類以上）（1点） ・表紙にタイトルをつける（1点） ・裏表紙に学籍番号・名前を書く（1点） ・本形式であること（閉じ紐、リング、ファイル、リボン、ノートetc）（1点） ・大きさ15cm×18cm以上（1点） <p>◎ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがみてわかりやすいこと（10点） ・統一感を持って作成してあること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（10点） <p>※採点后、成績を個別に開示し、授業内で振り返りを行う。</p>
受講の心得	<p>日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。</p> <p>地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。</p>
授業外学修	<p>1. 復習として、ノートの整理を行う。</p> <p>2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」やってみたくて心弾ませる子どもを目指して	住野好久 清水憲志 福澤 惇也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	<p>保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）</p> <p>幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府、文部科学省、厚生労働省）</p>			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年）、附属幼稚園教諭（1年）、ネイチャーゲームリーダー（2年）、ネイチャーゲームインストラクター（1年目）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をかした教育内容	<p>子どもの育ちを豊かにする環境について、実務経験【公立保育所保育士（8年）、附属幼稚園教諭（1年）】を生かして、実践事例を取り入れ、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ、指導の大切さを学ぶとともに、学生自身が実体験することで感動体験を味わい、保育者としての資質が向上できるような援助する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（2年）、ネイチャーゲームインストラクター（1年目）】を行い、自然を身近なものとして捉えられるようにする。</p>			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 環境が及ぼす影響を理解し、想像力豊かに構成できる。	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成するイメージができる。	発達の連続性を意識して、環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがあまりできる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがにくい。
知識・理解	2. 人的環境として相応しい、自然への知識・興味・関心を持ち、発達に応じて援助できる。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合い、子どもの気持ちを考え、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合っており、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がない。

科目名	(保育内容) 言葉 1クラス		授業番号	EE206A	サブタイトル				
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	保育内容における領域「言葉」について理解するとともに、子どもの発達に関する知識や言葉を育てる児童文化財を実際に体験することを通して、子どもの言葉の育ちを支える保育者のかかわりについて学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における、ねらい・内容・留意事項を理解できる。 ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。 ・絵本、ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。 ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもと言葉① 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する								
第2回	子どもと言葉② 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する								
第3回	子どもと言葉③ 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する								
第4回	子どもと言葉④ 幼児の言葉の特徴と発達について理解する								
第5回	幼児教育における言葉 領域「言葉」のねらいと内容について理解する								
第6回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 児童文化財の保育における役割について理解する								
第7回	絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする）								
第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 様々な児童文化財があることを知る。								
第9回	言葉に対する感覚とは 様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ、言葉そのものも面白さや楽しさを知る								
第10回	保育で用いるペープサートを作る① ペープサートの基本的な作り方を知り、題材を選ぶ								
第11回	保育で用いるペープサートを作る② 保育現場での実践を想定し、作ったペープサートが子どもにどのように見えるかを意識しながら工夫して作る								
第12回	ペープサートを演じる（模擬保育をする）								
第13回	子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える								
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える								
第15回	特別支援、多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業における発表や参加態度など、ルーブリックをもとに評価する。						
	定期試験	50	到達目標に関する基本的な知識について試験を行い、理解度を評価する。						
	その他	20	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。保育現場での実践を想定し、子どもの発達段階や興味関心、子どもの見え方等を意識して作成、演じることができたかどうかを評価する。（10%）						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	絵本の読み聞かせやペーパート等の実践発表については、授業時間外における教材研究、発表練習が必要となってくるが、積極的に取り組むこと。
授業外学修	1 予習として教科書の授業にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習としてノートの記入や資料の整理をする。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」	浅井 拓久也 編著	教育情報出版	978-4-909378-58-3	税込み2000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文科科学省 厚生労働省 内閣府	チャイルド本社	978-4805402580	500円+税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（19年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（19年）をもつ教員が、事例や実践をもとに領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 言葉の意義や機能	人間にとっての言葉の意義や機能について、乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて、具体的かつ論理的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について具体的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について、説明することができない。
知識・理解	2. 領域「言葉」に関する知識	領域「言葉」に関する具体的な知識を深く修得している。	領域「言葉」に関する具体的な知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分である。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分でない。
知識・理解	3. 保育者の姿勢や援助	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、具体的、建設的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、具体的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し、適切に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解が不十分であるため、適切に述べることができない。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解できていないため述べることができない。
思考・問題解決能力	1. 課題への対処	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について、探究心をもって取り組み明らかにしようとする。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について、探究心をもって取り組むことができる。	乳幼児の言葉の発達に関する様々な視点や方法について、問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば、乳幼児の言葉の発達に関して、考えたり調べたりすることができる。	担当教員の指示があっても、乳幼児の言葉の発達に関して、考えたり調べたりすることができない。
技能	1. 絵本の読み聞かせ	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ、事前に繰り返し練習した上で、適切に読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に繰り返し練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由、読み聞かせのねらい、導入方法など、保育における読み聞かせのポイントをつまみ、かつ事前に練習しているが、事前の練習が不十分である。	保育における読み聞かせのポイントの理解が不十分であるとともに、事前の練習をしていない。
技能	2. ペーパートの作成、発表	ペーパートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ、事前に繰り返し練習した上で、適切にペーパートを演じることができる。	ペーパートの題材の理由、ねらい、導入方法などのポイントをつまみ、かつ事前に繰り返し練習した上で演じることができる。	ペーパートの題材の理由、ねらい、導入方法などポイントをつまみ、かつ事前に練習した上で演じることができる。	ペーパートの題材の理由、ねらい、導入方法などポイントをつまみ、かつ事前に練習しているが、事前の練習が不十分である。	ペーパートの題材の理由、ねらい、導入方法などポイントの理解が不十分であるとともに、事前の練習をしていない。
態度	1. 受講態度	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの考えを分かりやすく発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を適切に理解し、自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの考えを発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解しているが、自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず、自分なりの意見もない。
態度	2. グループ活動での言動	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

科目名	(保育内容) 表現 1クラス			授業番号	EE207A	サブタイトル			
教員	鳥越 亜矢、岡本 美幸								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	必修
授業概要	子どもの成長過程における多様な表現に関して、幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら、創造性豊かに楽しく表現し、創作体験を重ねることにより、豊かな感性を磨くとともに創造性を高め、指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。								
到達目標	感じたことを色や形で表現することができること、制作物を使った表現ができること、また、音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい、幼児の発達特性に合わせた指導ができるようになることを目的とする。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	1回～3回 オノマトペの表現 4回～7回 ブラックライトを使った音・光・形の競演 8回～11回 音やリズムを表現する 12回～15回 体を使った表現や音を感じ、伝える体験 授業の効率をあげるためにグループに分かれて行なう内容がある。								
回	概要						担当		
第1回	オノマトペの表現 1 オノマトペを探す(音・触感・様子を表す表現など) オノマトペに関する説明を聞き、概要を理解する。3回目までの進め方と内容について理解する。グループを形成して話し合い、発表内容を決めて担当教員に報告する。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第2回	オノマトペの表現 2 練習・リハーサル・手直し 表現の発表に必要なものを準備または作成する。発表に使用する教室にグループごと移動し、動き方や表現の確認をする。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第3回	オノマトペの表現 3 発表と振り返り 通し練習の後、グループごとにオノマトペをテーマにした内容を発表する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ、自他の発表で面白いと感じたこととその理由、改善点。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第4回	ブラックライトを使った音・光・形の競演1：概要の理解 ブラックライトやそれを使った舞台表現について参考資料を視聴し、構想・制作・練習・発表までの説明を受けて概要を理解する。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第5回	ブラックライトを使った音・光・形の競演2：制作・練習 音楽ホールにブラックライトを設置して、光るものをもって舞台上に立って動いてみる経験をする。教室で製作を行い、練習は音楽ホールで行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などをいろいろと試行する。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第6回	ブラックライトを使った音・光・形の競演3：リハーサル・手直し 第5回目の経験を踏まえて教室での製作の仕上げと随時音楽ホールでの練習を行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などのさらなる検討を行う。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第7回	ブラックライトを使った音・光・形の競演4：上演(音楽ホール)と振り返り 音楽ホールにて全グループによる通し練習を行った後、本番としての上演を行う。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ、自他の発表で面白いと感じたこととその理由、改善点。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第8回	音やリズムを表現する 1 保育教材「タップリン」の素材さがしと作成 ブラックライトを使った音・光・形の競演の振り返りについて総評としてのコメントを聞く。音やリズム遊びを楽しむ保育教材について紹介し、手袋の指先にボタンなどを縫い付けるなどして固いものを取り付ける。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第9回	音やリズムを表現する 2 タップリンの作成と演奏に向けて 作成の続きのほかに、何をたたくか素材を探したりたたき方を試したりするほか、リズムや曲に合わせた練習をする。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第10回	音やリズムを表現する 3 タップリンを用いた演奏に向けて 曲に合わせたステージへの入退場方法を考えたり、たたくものやたたき方を工夫したりして表現としての質が高まるよう練習する。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第11回	音やリズムを表現する 4 タップリンを用いた演奏と振り返り リハーサル後に上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。・工夫したところ、自他の発表で面白いと感じたこととその理由、改善点。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第12回	手遊び・手話歌・リトミック／音を感じる体験1 手遊び・手話歌を体験するグループと、音を様々な方法で身体的に感じる体験をするグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお、これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第13回	音を感じる体験1／手遊び・手話歌・リトミック12回目に受講した内容ではない方の体験をする。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第14回	リトミック／音を感じる体験2リトミックについて体験的に理解するグループと、様々な方法で音を伝える体験のグループに分かれて様々な表現の体験と理解を深める。なお、これらの内容には表現体験と鑑賞体験の基盤となる感受するものが含まれる。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
第15回	音を感じる体験2／リトミック14回目に受講した内容ではない方の体験をする。						鳥越 亜矢 岡本 美幸		
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業中の活動や発言について、以下の観点に基づき評価する。 (1)課題について真摯に向き合い、深く考えた意見を発表、または提出プリントに記述できる。 (2)グループ活動のリーダーになった場合の務めを果たし目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。 (3)グループ活動でメンバー同士として積極的に意見交換ができ、グループ内で協力して目標に向かう姿勢が見られる。							
小テスト(舞台等における発表)	20	グループ活動の発表の中で主に次の観点で評価する。(1)実技発表の内容における創造性。(2)実技発表及び成果物としての完成度。(3)目標到達に対して最後まで改善する意欲や、向上心を持って取り組んでいるか。							
その他	20	以下の姿勢を評価する。個性、感性を尊重し合い、情報交換のコミュニケーション力を発揮することができる。各課題の準備や処理に対しても責任ある行動ができる。他者の発表に対して興味、関心を持ち、多くの気づきを共有する発言、行動ができる。							

評価の方法： 自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず、個人として率先して、意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また、実技発表においては準備段階からの全体の流れを振り返り、評価をフィードバックする。
受講の心得	<p>[造形表現について] 課題に対して主体的・創造的な姿勢で、意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け、清掃をきちんとすること。</p> <p>[音楽表現について] 発表の場に対し積極的に取り組み、音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。</p>
授業外学修	授業で学んだ成果を元に、週当たり2時間～4時間予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い、他者に還元する姿勢を持ち、復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児の発達特性に応じた表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた表現活動を考えるに至らない。
思考・問題解決能力	1. 視覚的・聴覚的情報を活用した表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており、それらを効果的に活用して、新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり、それらを活用して、表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが、表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず、表現に結びつかない。
技能	1. 感じたことの表現	感じた色々なことを様々な方法で十分に表現することができる。	感じた色々なことを様々な方法で表現することができる。	感じたことをいろいろな方法で表現することができる。	他者の表現を模倣しながら感じたことを表現する。	表現方法が示されていても、感じたことを表現することに結びつかない。
技能	2. 手遊びや手話歌の実践	気持ちに余裕を持ち、表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程・音量で実践できる。	表情豊かに正しい音程で実践できる。	表情豊かであるが、音程がいまいちまま実践している。	表情が乏しく、あいまいな音程のまま実践している。
態度	1. 課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表、または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表、または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表、また記述できない。
態度	2. グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのためグループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	特別支援教育入門 1クラス			授業番号	EE212A	サブタイトル	
教員	平尾 太亮						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習
						必修・選択	必修
授業概要	特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに、教育・保育をする上で必要な様々な障害について知り、個別の教育的ニーズを把握、他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・障害等、特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。 ・特別な支援を要する子どもへの教育や保育、支援の方法を知り、実際に支援する際の方策を提示し、実施することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	特別支援教育とは 「特別支援教育」の意義と目的について理解する。						
第2回	障がいの意味と理解、特別支援教育の歴史の変遷 「障がい」について我が国と国際的な捉えを理解し、特別支援教育の歴史の変遷について知る。						
第3回	身体障がい児への理解と支援 身体障がいの定義を知り、支援方法を具体的に理解する。						
第4回	知的障がいの理解 知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。						
第5回	知的障がい児への支援 知的障がい児に対する支援方法を具体的に理解する。						
第6回	発達障害の理解、ASDの理解 発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。						
第7回	ASD児への支援 ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。						
第8回	ADHDの理解、ADHD児への支援 ADHDの定義を知り、支援方法を具体的に理解する。						
第9回	LDの理解、LD児への支援 LDの定義を知り、支援方法を具体的に理解する。						
第10回	指導計画の作成と記録および評価 指導計画の作成や、記録及び評価のポイントを理解する。						
第11回	子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。						
第12回	地域の専門機関や小学校との連携 多職種との連携について知る。						
第13回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。						
第14回	特別な配慮を必要とする様々な子ども 貧困児や母国語の異なる子どもなど、特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。						
第15回	まとめ						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	5	授業に積極的に参加し、意見や疑問を表現することができる。				
	レポート						
	小テスト	35	講義内容の理解度、定着度を評価する。				
	定期試験	35	全講義終了後、障害児保育における知識と視点をふまえて、総合的に論じることができる。				
	その他	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう、積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1. 授業内で学修した、障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2. 授業内で授業内容の小テストがあるため、その準備をすること。 3. 教科書のうち、次の講義内容に関わる部分を読み、疑問点を明らかにすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践事例を通して、具体的な かかわりを学ぶ保育現場におけ る特別支援	松井 剛太・七木田 敦 編著	教育情報出版	978-4-909378-49-1	2200
使用テキ スト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年）、スクールカウンセラー（12年）			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験を いかした教育 内容	施設職員の経験（3年）を活かし、各障がいに対して具体的な事例を交えながら指示する。 カウンセリング経験（12年）から、様々な困難感を抱え、特別な支援を必要としている子どもや、特別な支援を必要とする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について、具体的な事例を通して考えることで、実践力を養う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
態度	1. 課題への取り組み	課題の意図を理解し、特別支援の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。特別支援の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できていない。
態度	2. グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	健康の指導法 1クラス		授業番号	EE215A	サブタイトル				
教員	荒谷 友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児の心身の健康と安全、遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め、グループワークなどで意見交換を積極的に行う。								
到達目標	<p>幼児の発達や学びの過程を理解し、日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の発達や学びの過程を理解し、生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の発達や学びの過程を理解し、発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し、具体策を考えることができる。</p> <p>幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため、様々なツールを用いた指導法を計画できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「食事・食育に関する指導法について」 乳幼児にとって食事をする必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第2回	「着脱に関する指導法について」 幼児が自分で着脱することの意味について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第3回	「清潔に関する指導法について」 乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第4回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第5回	「生活面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第6回	「交通面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第7回	「災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第8回	「平衡性・移動性・操作性を高める運動遊びに関する指導法について」 乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第9回	「食事・食育・着脱に関する指導法について」 乳幼児にとって食事・食育・着脱することの必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。								
第10回	「清潔・排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって清潔・排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。								
第11回	「生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面・交通面・災害面の安全の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし、指導案を作成する。								
第12回	「指導案を活用した健康指導を行う」 対象年齢を設定し、ねらいどおりに健康教育を行う。								
第13回	「表現遊びに関する指導法について」 乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第14回	「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」 乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び、配慮事項を含めた指導法を考える。								
第15回	「小学校との接続を考慮した指導法について」 小学校との接続を考慮し、幼児期に身につけておく必要のある力について考え、指導法をまとめる。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する						
	レポート	10	課題のテーマに沿い、幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験	60	到達目標について、知識・理解の到達度を評価する						
	その他	20	指導案を使用した「健康の指導」ねらいに沿った指導案を時間通りに展開できるか評価表を用いて評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得									
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学修を行う。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	子どもの保健	中根淳子ほか	ななみ書房	978-4-903355-80-1	2,200円				
使用テキスト：自由記載	一年次に購入済み								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）								
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。								

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師（10年）としての実務経験の中で小児病棟勤務の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務での看護の経験から、保育の現場に必要な基礎的知識を教授する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 日常生活習慣に関する指導法の理解	領域「健康」のレイダネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレイダネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	2. 生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法の理解	領域「健康」のレイダネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレイダネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	3. 発達を促し安全に配慮した遊びの指導法の理解	領域「健康」のレイダネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレイダネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
思考・問題解決能力	1. 幼児の興味を引きだし効果高めるツールを使った指導法の計画	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集、十分な比較検討をした上でツールを決めることができる。また、発達に応じた的確な指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集・比較検討した上でツールを決めることができる。また、発達に応じた指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数と比較検討した上でツールを決め、指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数と比較検討した上でツールを決めたが、的確な指導法の考察が十分ではない。	目的を十分理解しておらず、ツールを比較検討しないまま指導法を考察するため、的確な指導法を作成できない。
技能	1. 健康教育の指導	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った的確な指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容で、対象者の興味・関心を引く十分な健康教育ができる。	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行えるが、指導内容が一部不十分である。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	健康教育は一通り行えるが、指導案通りにねらいからそれた指導となり、対象者の興味・関心を十分に引くことができない。	指導案が不十分で、ねらいが定まっておらず、内容が適切ではない。対象者の発達・発育に合わせた内容ではない。
態度	1. 課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	意欲が十分とはいえないが、グループワークなどで少しはテーマに沿った内容で意見・感想を述べることがある。また、知識の定着が少ない。	意欲的な態度が見られず、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることが全くできない。また、知識の定着も見られない。

科目名	人間関係の指導法			授業番号	EE216	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	子どもが他者と親しみ支え合って生活するために、領域「人間関係」のねらい及び内容について、子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を深めることを目指す。そのうえで、自立心を育てるとともに、道徳心や規範意識の芽生えを育み、他者とかかわり、協力して物事に取り組んでいく力の育ちにふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な知識および指導法を学習する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえて、子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 ・子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につける。 ・グループワーク、事例検討等の演習の実践およびその振り返りを通して、具体的な指導案の作成や保育を改善する視点を身につける。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げや学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(技能)の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像 「人間関係」のねらいと内容を踏まえ、遊びや生活を通して他者を理解し調整する力を環境を通して培うことを理解する。								
第2回	乳幼児期における人とかかわりの発達と保育 人とかかわりの重要性と個と集団の育ちについて理解する。								
第3回	保育者の様々な役割 人とかかわる力を育む保育者の役割について理解する。								
第4回	0歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 0歳児の人とかかわりに重要となる、人的環境について理解する。								
第5回	1, 2歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 1, 2歳児における人間関係の意義と、その発達を支える保育者の援助について理解する。								
第6回	3, 4, 5歳児における人とかかわりの発達と保育者の援助 各歳児の特徴を踏まえながら、人間関係の発達を育む保育者の援助について理解する。								
第7回	人とかかわりが難しい子どもへの支援 障がいのある子どもや外国製の子ども等、多様性を尊重した保育のあり方や、支援の工夫を理解する。								
第8回	発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた、乳児期、幼児期、学童期への連携・接続について理解する。								
第9回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」① 「自立心」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。								
第10回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」② 「道徳心や規範意識の芽生え」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。								
第11回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」③ 「協同性」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。								
第12回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」④ 「社会生活との関わり」を育むために、幼稚園教育要領や保育指針を読み解く。								
第13回	子どもの人間関係の発達を支える保育者の同僚性 保育の相互理解を促すためにどのように、言語化・可視化を行うか、保育を読み取る視点について理解する。								
第14回	子ども理解から保育をつくる 子ども理解から始まる保育について改めて考え、その視点を踏まえた指導案の作成方法を理解する。								
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 子どもを取り巻く人間関係の状況と現代に求められる保育内容「人間関係」について理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	授業への参加・貢献度、受講態度、授業の振り返りシート提出等を、総合的に評価する。						
	レポート・課題	15	3回の課題レポートを行う。テーマに沿って、理解度を評価する。コメントをつけてそれぞれに返却する。						
	小テスト	20	「知識」・「理解」「思考・問題解決能力」の理解を深めるために、ルーブリックを踏まえて2回の小テストを行う。返却時に授業内で復習を兼ねて解説する。						
	定期試験	50	授業全般の内容について、理解度を評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	・グループワーク等に積極的に参加し、自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。 ・日ごろから乳幼児や子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけ、人間関係のあり方について探究し、想像力を広げるようにすること。
授業外学修	・毎回、授業終了時に本授業における学びを確認するための、振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として、テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省(著)	フレーベル館	978-4577814475	240円+税
保育所保育指針解説	厚生労働省(編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税

使用テキスト：自由記載

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
領域「人間関係」乳幼児期にふさわしい生活で育む	河合優子(編著)・大澤洋美(編著)・佐々木 晃(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09605-3	2, 420円
新訂 事例で学ぶ保育内容(領域)人間関係	無藤隆(監修) / 岩立京子(編者代表)	明文書林	978-4-89347-257-0	2, 200円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府(著), 文部科学省(著), 厚生労働省(著)	フレーベル館	978-4577814499	350円+税

参考書：自由記載

その他 その他, 授業中に適宜資料を配付する。

備考

注意事項

担当教員の実務経験の有無 有

担当教員の実務経験 公立保育所における保育士の実務経験を有する。(15年)

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者 実務経験をいかした教育内容 公立保育所における保育士の経験(15年)を活かして、具体的な事例を交えながら、保育者として身につけておくべき領域「人間関係」に関する知識と指導法、基礎的な技能を習得できるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1.領域「人間関係」の理解	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を大変よく理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をあまり理解していない。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をあまり理解していない。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な、子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を全く理解していない。
知識・理解	2.保育現場での「人間関係」の理解	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察が大幅よくなる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察ができる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察があまりできない。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察があまりできない。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ、幼児の「人間関係」を振り返り、その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察が全くできない。
技能	1.保育技術に関する理解	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を十分に身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をおおむね身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をおおむね身につけていない。	子どもの発達や遊びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を全く身につけていない。

科目名	環境の指導法 1クラス		授業番号	EE217A	サブタイトル				
教員	清水 憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた、具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたて、子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・環境についての知識や技術について理解し、修得することができる。 ・具体的な環境とのかかわりを想定して、保育構想をたてることができる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 …環境が持つ意味を捉え、指導法を考える。								
第2回	発達にふさわしい人的・物的環境 …発達を促すための環境を理解する。								
第3回	植物や生き物に触れる中で学び …どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。								
第4回	自然物を使った保育指導案の作成 …自然物を活用できる指導案を作成しよう。								
第5回	自然物を使った保育の実践 …自然物を使って作品を作ろう。								
第6回	乳児の保育環境について …乳児の環境について知識を深めよう。								
第7回	幼児の保育環境について …幼児の環境について知識を深めよう。								
第8回	秋の自然物に触れ、深めよう（どんぐりゴマづくり） …ツリーやドングリゴマを作ろう。								
第9回	自然環境と子どもの育ち …自然について理解し、子どもの育ちに与える影響を理解する。								
第10回	遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために …生活を通して、文字や数量を理解しよう。								
第11回	気になる子どもへの環境について …子どもの特性を知り、生活しやすい環境を考えよう。								
第12回	ドキュメンテーションの作品鑑賞会 …それぞれの作品を見て、感性を高めよう。								
第13回	保護者に向けた情報発信のツールとしての活用 …様々なツールについて理解し、よりよい在り方考えよう。								
第14回	多国籍な子どもと共生する保育環境について …外国のルーツを持つ子どもについて理解し、対応を考えよう。								
第15回	幼児期の心を育てる保育環境について …子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり、集中して授業に取り組んでいるかを評価する。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	60	知識・理解の到達度を評価する。						
	その他	30	ドキュメンテーション作成						

評価の方法： 自由記載	<p>ドキュメンテーションの評価の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4の紙2枚分（A3・1枚）に写真を用いて、記録が見られるものをつくろう。(1点) ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点) ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点) ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点) ・1つの文章が短いこと。(。までが30文字) (1点) (※補足のイラストなどで、誰が見ても同じ理解ができるなら、説明文を入れる必要はありません。) ・子どもがみてわかりやすい内容であること (5点) ・自分なりの工夫がされていること (5点) ・誰が見ても変化（経過）していることが分かること (5点) ・見出し等に工夫がされていること (5点) ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること (5点) ※採点后、成績を個別に開示し、授業内で振り返りを行う。
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の生活の中で、四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち、色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり、音楽を聞いたり、友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習として、ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「面白い」「やってみよう」と心弾ませる子どもを目指して	住野好久, 清水憲志, 福澤惇也	ASOBI書房	979-8392113552	
使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府, 文部科学省, 厚生労働省）			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の職務経験	公立保育園保育士（8年）、幼稚園教諭（1年）、ネイチャーゲームリーダー（2年）、ネイチャーゲームインストラクター（1年目）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実務経験（公立保育園保育士（8年）、幼稚園教諭（1年）、ネイチャーゲームリーダー（2年）、ネイチャーゲームインストラクター（1年目））を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し、総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して、ねらい、内容、指導案、保育実践など指導する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（2年）】を行い、自然を身近なものとして捉えられるようにする。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 発達段階に基づいた、環境構成	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成しようとする。	発達の連続性を意識して、環境を構成できる。	年齢に応じた環境が構成できる。	年齢に応じた環境があまり構成できる。	年齢に応じた環境が構成しにくい。
知識・理解	2. 人的環境としての意味を理解し、勤勉かつ主体的に行動	人的環境として、協働性や主体的な学びを意識して行動できる。	人的環境として、子ども一人一人に応じて行動できる。	人的環境として、意識して行動できる。	人的環境として、あまり意識して行動できない。	人的環境として、意識して行動できない。
知識・理解	3. 植物の特性を知り、食育が持つ意味への理解力	野菜や植物の特性や育てる季節を理解し、積極的に保育に取り入れようとする。	野菜や植物の特性を理解し、保育に取り入れる。	野菜や植物の名前を理解している。	野菜や植物の名前をあまり知らない。	野菜や植物の名前をほぼ知らない。
思考・問題解決能力	1. 子ども一人一人やクラスの課題を意識し、環境を構成できる。	子ども一人一人の特性やクラスで共に育ち合って生活することを十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性をあまり理解できず、適切な援助がしにくい。	子ども一人一人の特性を理解できず、適切な援助ができない。
思考・問題解決能力	2. 生活の中で季節感に親しみ、良さを感ずる計画しようとする。	四季の特徴を十分に意識して保育の年間計画を立案できる。	四季の特徴を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画があまり立案できない。	四季を意識して保育の年間計画を立案できない。

科目名	言葉の指導法		授業番号	EE218	サブタイトル				
教員	福澤 惇也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	保育における「言葉」の意義								
第2回	子どもの言葉の発達過程（1）－発達の道筋－								
第3回	子どもの言葉の発達過程（2）－小学校への接続－								
第4回	言葉を育む環境構成と援助（1）－話したい、聞きたい意欲－								
第5回	言葉を育む環境構成と援助（2）－生活に必要な言葉の習得－								
第6回	言葉を育む環境構成と援助（3）－すれ違い等のもどかしさへの援助－								
第7回	言葉を豊かにする環境構成と援助－言葉による伝え合い－								
第8回	言葉を豊かにする環境構成と援助－文字などで伝える楽しさ－								
第9回	子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTを活用して）								
第10回	言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊び）								
第11回	子どもの言葉を育む保育の実践（情報機器を活用した教材研究）								
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想（指導案作成）								
第13回	子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育の実践）								
第14回	子どもの言葉を育む保育の評価と改善（振り返り）								
第15回	「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度、課題に対して協働する態度、講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。							
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について、様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については、今回の講義冒頭で解説を加える。							
小テスト									
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。							
その他									
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。								
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み、知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
使用テキスト：	自由記載								
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック	松本峰雄ほか	ミネルヴァ書房	978-4-623-09277-2	2, 750円					

参考書：自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 (平成29年6月 チャイルド社) 幼稚園教育要領解説(平成30年3月 文部科学省)
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外 で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以外 で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	幼稚園教諭の経験を生かし、現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 幼児期の言葉の発達を 理解できている	幼児期の言葉の発達に関して 高度な知識を有し、言葉の指 導法における保育計画を具 体的に考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関し て高度な知識を有し、言葉 の指導法における保育計画 を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有し、言葉の指導 法における保育計画を考 えることができる。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有してはいるが、 言葉の指導法における保育 計画を考えるまでには至ら ない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関し て知識を有してはいるが、 言葉の指導法における保育 計画を考えるまでには至ら ない。
知識・理解	2. 幼児の言葉の発達を促す 援助の方法を理解できている	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して高度な知識を有 し、言葉の指導法における 保育計画を具体的に考 えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して高度な知識を 有し、言葉の指導法にお ける保育計画を考 えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有し、 言葉の指導法における保 育計画を考 えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有しては いるが、言葉の指導法にお ける保育計画を考 えるまでには至ら ない場合がある。	幼児の言葉の発達を促す援助 法に関して知識を有しては いるが、言葉の指導法にお ける保育計画を考 えるまでには至ら ない。
知識・理解	3. 幼児期の言葉の発達に 関する課題について理解でき ている	幼児期の言葉の発達に関する 課題について高度な知識を 有し、保育の中での具 体的な援助法を考 えることができる。	幼児期の言葉の発達に関 する課題について高度な 知識を有し、保育にお ける援助法を考 えることができる。	幼児期の言葉の発達に 関する課題について知識 を有し、保育にお ける援助法を考 えることができる。	幼児期の言葉の発達に 関する課題について知識 を有してはいるが、保 育における援助 法を考 えるまでには至ら ない場合がある。	幼児期の言葉の発達に 関する課題について知識 を有してはいるが、保 育における援助 法を考 えるまでには至ら ない。
知識・理解	4. 幼児を取り巻く児童文化 について理解できている	幼児を取り巻く児童文化に関 して高度な知識を有し、 児童文化を扱う保 育計画を具 体的に考 えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に 関して高度な知識を有し、 児童文化を扱う保 育計画を考 えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に 関して知識を有し、 児童文化を扱う保 育計画を考 えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に 関して知識を有しては いるが、児童文化を 扱う保 育計画を考 えるまでには至ら ない場合がある。	幼児を取り巻く児童文化に 関して知識を有しては いるが、児童文化を 扱う保 育計画を考 えるまでには至ら ない。
知識・理解	5. 就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法について 理解できている	就学後教育をふまえた幼児 期の言葉の指導法に関 して高度な知識を有し、 保育計画を具 体的に考 えることができる。	就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法に 関して高度な知識を有し、 保育計画を考 えることができる。	就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法に 関して知識を有し、 保育計画を考 えることができる。	就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法に 関して知識を有しては いるが、保 育計画を考 えるまでには至ら ない場合がある。	就学後教育をふまえた幼 児期の言葉の指導法に 関して知識を有しては いるが、保 育計画を考 えるまでには至ら ない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識 の応用に基づく有機的な判断 ができる	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益 とは何かを理解した上 で、高度な知識を 活用して具体的な保 育計画を考 えることができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益 とは何かを理解した上 で、高度な知識を 活用して保育計 画を考 えることができる。	保育内容に関する数多の情 報を精査し、子どもの利益 とは何かを理解した上 で、知識を 活用して保育計 画を考 えることができる。	保育内容に関する情報を 精査し、子どもの利益 とは何かを 理解してはいるが、 保育の計 画を考 えるには至ら ない場合 がある。	保育内容に関する情報を 精査し、子どもの利益 とは何かを 理解してはいるが、 保育の計 画を考 えるには至ら ない。
技能	1. 指導案が立案できる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、 子どもの姿に即 した指導案の立案 ができる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、 子どもの姿に即 した指導案の立案 ができる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、 指導案の立案 ができる。	幼児期の言葉の発達を理 解してはいるが、 指導案の立案 は難しい。	幼児期の言葉の発達に 関する理解が不 十分であり、 指導案の立案 が難しい。
技能	2. 幼児の言葉の発達を促 す援助ができる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、 子どもの成長や 日々の姿に即 した適切な援助 とかわり方が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、 子どもの成長や 日々の姿に即 した適切な援助 とかわり方が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、 幼児に適切な 援助を行い、 かわり方が できる。	幼児期の言葉の発達を理 解してはいるが、 幼児への適 切な援助を行 うことが難 しい。	幼児期の言葉の発達に 関する理解が不 十分であり、 幼児への適 切な援助を行 うことが難 しい。
技能	3. 言葉の指導における保 育環境の構成ができる	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、 幼児が言葉を 獲得して使用 できる環境を具 体的に構成す ることができる。	幼児期の言葉の発達を十分 理解した上で、 幼児が言葉を 獲得して使用 できる環境を 構成す ることができる。	幼児期の言葉の発達を理 解した上で、 幼児が言葉 を獲得して 使用できる 環境を構成 することができる。	幼児期の言葉の発達を理 解してはいるが、 幼児が言葉 を獲得して 使用できる 環境を構成 することが難 しい。	幼児期の言葉の発達に 関する理解が不 十分であり、 幼児が言葉 を獲得して 使用できる 環境を構成 することが難 しい。

科目名	表現の指導法		授業番号	EE219	サブタイトル				
教員	松井 みさ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について実践的に学び、指導計画を作成する能力を身に付ける。								
到達目標	幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付けることができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	領域「表現」のねらい及び内容について（1） （子どもにとっての表現とは何か、また表現へのプロセス、発達と子どもの表現などについて学ぶ）								
第2回	領域「表現」のねらい及び内容について（2） （造形表現・身体表現について、子どもを取り巻く現状などについて考える）								
第3回	領域「表現」のねらい及び内容について（3） （音楽表現について、子どもを取り巻く現状などについて考える）								
第4回	幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿について （学内でサウンドスケープ〈音の風景〉を探してそれを年齢別にオノマトペや絵で表現する）								
第5回	小学校の教科内容との関連、情報機器及び教材の活用について （前週で作ったサウンドスケープを発表し、小学校の教科内容との関連として教材に活用する）								
第6回	乳幼児の生活と表現について （童謡の歴史、発達した背景などから童謡は乳幼児にどうして必要かを考え、童謡の世界を見る）								
第7回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（1） （絵本にアナログの音、デジタルの音をつけてみて、雰囲気の違いを考える）								
第8回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（2） （前週の、絵本に音をつけてみたのをグループ別に発表する）								
第9回	情報機器を活用した環境構成と言葉がけについて（3） （前週の絵本に音をつけてみよう2の良い発表について、グループ内でさらにブラッシュアップする）								
第10回	幼稚園・こども園での表現活動について （明治から、幼稚園での表現活動がどのように変わっていったのかを、その内容の変遷とともに考える）								
第11回	年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（1） （5歳児の合奏譜の計画、作成をグループ別に考える）								
第12回	年齢や発達に応じた保育構想・指導案の作成（2） （考えた合奏譜を、どのように指導するかグループ別に考える）								
第13回	発表会を企画する（1）全体の流れを把握する （子ども園で、発表会を行うという前提で、演目を考える）								
第14回	発表会を企画する（2）個々の表現活動を考える （演目を1つ取り出して、指導法を考える）								
第15回	表現活動の様々な取り組みについて （時代の流れを考えたとき、表現活動はどのように変わってきたかを考える）								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業に積極的に参加し、グループワークにおいては意見や疑問を積極的に発言できるかを評価する。						
	レポート	50	授業時に数回行う小レポートと、授業最終時のまとめのレポートを課す。授業内容を理解し、自分の考えを的確に表現できているかを評価する。小レポートはコメントをつけて次回授業時に返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	20	授業内で作成する指導案や企画などについて、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法が作成できているか評価する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し、1回の授業で4時間の学習を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他必要があれば授業中に適宜資料を配布する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	ミュージックスクール講師（6年）
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者の有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験を いかした教育 内容	勤務経験を活かし、保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し、実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 「表現」のねらい及び内容について	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について深く学び、理解して、十分論じることができる。	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について学び、理解して論じることができる。	幼稚園教育要領に基づき、「表現」のねらい及び内容について学び、ほぼ理解して論じることができる。	幼稚園教育要領に基づいた「表現」のねらいや内容について理解することができるが、論じるまでには至らない。	幼稚園教育要領に基づいた「表現」のねらいや内容について理解することができないため、論じることができない。
知識・理解	2. 「表現」の指導について	年齢に応じた「表現」の指導法を明確に理解して十分実践することができる。	年齢に応じた「表現」の指導法を理解して実践することができる。	年齢に応じた「表現」の指導法をだいたい理解して実践することができる。	「表現」の指導法をだいたい理解して、多少は実践することができる。	「表現」の指導法について理解できておらず、実践することができない。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達と表現について	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程を正しく理解して、言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等すべてについて十分説明できる。	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程を理解して、言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等のうち、3つについて十分説明できる。	幼児の発達や、領域「表現」に関する学びの過程をだいたい理解して言語表現、造形表現、身体表現、音や音楽表現等のうち2つについて十分説明できる。	領域「表現」に関する学びの過程をだいたい理解して、その概要を説明できる。	領域「表現」に関する学びの過程を理解しておらず、説明もできない。
思考・問題解決能力	2. 保育を構想する方法について	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる様々な指導場面を具体的にかつ詳細に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を具体的にかつ詳細に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を具体的に想定することができる。	保育を構想する方法を正しく身に付けており、領域「表現」に関わる指導場面を想定することができる。	保育を構想する方法を身に付けておらず、領域「表現」に関わる指導場面を想定することができない。
思考・問題解決能力	3. 指導計画の作成能力	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に適切に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据え、年齢に応じた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据えた表現活動の指導計画を立てることができる。	幼稚園での子どもの生活を見据えた表現活動の指導計画を立てることができない。

科目名	教育・保育技術論 1クラス		授業番号	EE220A	サブタイトル				
教員	鳥越 亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが、活動を考える方法、活動を評価する（ほめる・振り返る）視点や方法のほか、保育における直接的、間接的コミュニケーションなどについて講義する。また、1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ、主体的に対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。								
到達目標	子どもの特性を考慮して、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や、その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また、ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	ドキュメンテーションの内容は、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。 ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 補講の回は1・2組で合同行が、それ以外の回はクラス別に行う。								
回	概要						担当		
第1回	教育・保育におけるエビデンス／ドキュメンテーションの内容紹介 5Cの力と幼児期の終わりまでに沿ってほしい10の姿との関係性を理解するため、実際に保育現場で5Cの力を視点活用した事例を知り、教育・保育におけるエビデンスの重要性を理解する。また、最終課題のドキュメンテーションについて説明を受け、概要を理解する。								
第2回	保育内容を考える方法①ものとの出会いと行為から保育内容を考える～〇で □を/□に △する～ “もの”と出会い、子どもが好奇心いっぱいに“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為や、そのような行為が起きる安全・安心な環境、生活に内在する保育内容の芽について考える。								
第3回	保育内容を考える法②同じ活動の意味を考える 「たっぷり」「のびのび」「何度でも」をキーワードにして、同じ活動でも年齢や姿勢、場所、画材、道具、基底材などによって生じる変容や、活動の持つ意味について考える。								
第4回	保育内容を考える方法③課題と題材（発達に応じた行為を表現に活かす） 発達上の課題とそれに適した保育内容の題材を考えるため、1年次の「保育内容の理解と方法A」で配布した資料に基づき、発達に応じた行為を表現活動に活かすことや育ちの上での表現活動の意味を考え、理解する。								
第5回	教育・保育の技術①導入・展開・評価における思考・意欲・行動を引き出す仕掛け 子どもの思考・意欲・行動を引き出す仕掛けを情報と位置づけ、動機付けになる情報とは何か、また情報を提供するタイミングが保育環境・環境構成・導入・展開・評価などのそれぞれの保育場面にあることを理解する。								
第6回	教育・保育の技術②様々な子どもに対応する活動とは：結果やプロセスの多様性 自分が実習する園においてほしい子どもの特徴とその反対の特徴を短い言葉で表し、多様な子どもがいることを意識する。また、画一的な活動としてのスモールステップと多様な子どもに応じるためのスモールステップについて考える。								
第7回	教育・保育の技術③伝わる言葉・伝わらない言葉 幼児編 子どもに言いがちな仲良くする・ちゃんとする（きちんとする）・しっかりするなどの言葉は実はとても抽象的である。保育者の意図が子どもに届く表現について、事例を通じて理解する。その中で保育行為におけるオノマトペについても触れる。								
第8回	教育・保育の技術④伝わる言葉・伝わらない言葉 保護者編 保護者に対する保育者の言葉は時として保護者を不安にさせたり、担任や園に対する不信感につながりすることを理解する。事実を伝えるだけでなくそこに子どもの気持ちを添えることや、指導より提案のかたちをとること、伝えたその後のフォローをすることにより、保護者ともに子どもをはくむ保育姿勢や関係性の構築につながることを理解する。								
第9回	教育・保育の技術⑤保育の評価：振り返り 振り返るために必要なものが「ねらい」であることを理解する。また、保育者の「褒める」言葉がもたらす結果について考え、何をどう褒めることが子どもの育ちにつながるのかを理解する。その際、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」のスケッチブックに行った課題作品を褒め合う体験をする。これらを通じ、上手下手で捉えない保育姿勢について学ぶ。								
第10回	保育現場におけるICTの活用－研修と保護者に向けた保育ドキュメンテーション 保育者の業務内容におけるICT機器やシステムの活用について知る。また、具体的な事例を通じて園内・園外研修のほか、保護者への情報提供とそれを通じた信頼関係構築に寄与するといった、ICTの活用を含めた保育ドキュメンテーションの持つ意味について理解する。								
第11回	保育ドキュメンテーション作成に向けて グループ作りと取り上げる保育内容の選定を行う。グループ数は偶数で最大8グループとする。保育対象は0歳児から5歳児までがそろうようにする。取り上げる保育内容は1年次の「保育内容の理解と方法A/B」もしくは「（保育内容）表現」で取り上げた内容とし、様々な子どもに対応した活動や援助を行うように考える。								
第12回	ドキュメンテーションの作成 グループごとに保育内容の追体験を行うなどしてドキュメンテーションのプレゼンテーションに用いる素材を集める。取り上げた保育内容をするにあたり、5Cの力の発揮や子どもが好奇心いっぱいに“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為がどこでどんな風に見ることができるのかということや、そのような行為が起きる安全・安心な環境や援助についても考える。								
第13回	ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 12回目と同様。進度に応じてプレゼンテーション内容の整理や練習をする。プレゼンテーションの順番を決める。13回目の週のうちにプレゼンテーションデータをクラスルームに投稿する。								
第14回	プレゼンテーションとその講評 前半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。								
第15回	プレゼンテーションとその講評 後半グループ 14回目と同様。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度	30	1年次の学習内容を振り返りつつ活動に主体的に取り組んでいる様子を評価する。授業中のワークへの参加や発言についても加算評価の対象とする。							
レポート・提出課題	70	ドキュメンテーションの割合：40ドキュメンテーションの内容をSDGsの普遍的目標とSTEAM教育の観点、5Cの力、幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があるなど、保育のエビデンスとなる知識を獲得して活用していることを加算評価する。 時間外学修レポートを含む提出物とその割合：30・時間外学修レポート①SDGsと保育 5・時間外学修レポート②STEAM教育について調べること 5・毎回の授業における学びの振り返り20							
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には、1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。
授業外学修	保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には、時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週4時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載

ワークシートで学ぶ子どもの造形表現 第2版 (1年次の授業で購入済み)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載

新版 遊びの指導 入・幼児編 (1年次の授業で購入済み)
幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社
保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社

その他

備考

令和4年度改訂

注意事項

担当教員の実務経験の有無

有

担当教員の実務経験

岡山県教育センター及び、幼稚園・保育園における研修講師(13年)、岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者(2年)

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

実務経験をいかした教育内容

岡山県保育協議会保育会研究紀要における指導助および保育者研修等で、大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力、すなわち「感知する」Catch、「創造する」Create、「コントロールする」Control、「コミュニケーションする」Communicate、「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより、子どもの活動が豊かに展開し、噛みつきやひっかき減少した保育園があるので、エビデンスのある教育を行うことを目的として、そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 1年次の授業内容の振り返りにおける保育のエビデンスとなる知識の活用の様子	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動に多くのSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動にSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を振り返ることができる。また、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を振り返ることができる。また、教師の助言によってSTEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	1年次に学習した5Cの力のことをほとんど覚えておらず、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を5Cの力の発揮という視点で振り返ることができない。教師の助言があっても、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができない。
知識・理解	2. 保育内容のドキュメンテーションにおいて子どもの特性や多様性の考慮や、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法が示されていること	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る柔軟性のある具体的な保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る具体的な保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	ドキュメンテーションの内容が子どもの特性や多様な子どもがいることに触れられていないうえ、実践的なドキュメンテーションを作ることができない。
思考・問題解決能力	1. 問題点とその解決方法を見出す過程における他者との共同や知識・情報・手段の活用	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して様々な情報を集め、他者と共同して情報を検証したうえで、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すこと、または、共同して課題解決に当たることが難しい。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すことと共同して課題解決に当たることができない。
技能	1. 授業中のICT活用	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、多くの意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使いこなし、意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやJamboardを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドまたはJamboardのどちらかを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドやJamboardのどちらか使用することができないうえ、意見や考えを表明できない。
技能	2. グループで協力して作るプレゼンテーション資料とその発表及び質疑応答	グループで協力的、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に十分応答することができる。	グループで協力的、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に回答することができる。	グループで協力的、分かりやすい視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。上、質疑に回答することができる。	グループで協力して視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑にはかろうじて応答することができる。	グループ内で協力して発表する様子が見られない。また、時間内に発表を終えることができないうえ、質疑にも応答できない。

科目名	教育実習			授業番号	EF309	サブタイトル	
教員	山本 房子、福澤 惇也						
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習
						必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育（幼稚園・幼保連携型認定こども園）の現場で4週間の実習経験をする。						
到達目標	<p>幼児とその教育を正しく理解する力、幼児を受容しかつ指導する力、事務的な事柄を処理する能力等を身につける。</p> <p>優しさや思いやりある保育者の姿に触れ、信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り、実践出来る力を身に付ける。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>						
授業計画 備考							
授業計画 自由記載	<p>観察・参加・指導実習（部分指導・全日指導）とおよそ3段階で進められる。</p> <p>観察実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育実践の場を実際に観察し、幼児の実態や指導に対する理解を深める。 ・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。 <p>参加実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習担当教諭の計画に基づき、保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。 ・幼児に親しみ、その接し方に慣れる。 <p>指導実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部分指導 幼児の生活全体を把握し、担当教諭の指導計画に基づいて、1日のうちの1部分（1活動）を担当する。園の月案・週案等をふまえ、実習生自らが立案した指導計画により指導を行い、保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の言動等を観察することにより幼児理解を深める。 ・全日指導 最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し、1日の保育を実践する。 部分指導と同様、幼稚園の月案・週案等をふまえ実習生自らが立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。 						
授業計画 備考2							
評価の方法							
	種別	割合	評価基準・その他備考				
	授業への取り組みの姿勢／態度	70	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目、実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。実習後面談の中で、園からの評価をフィードバックし、自己評価とのすりあわせを行う。				
	実習日誌	30	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物について、記述内容や提出期限をふまえて評価する。実習後面談で個別にフィードバックを行うとともに、日誌にはコメントを添付して返却する。				
評価の方法：自由記載							
受講の心得	<p>体調管理に努め実習の課題をもち、積極的に実習に参加すること。社会人、保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。実習日誌等の取り扱い、提出物の期限に留意すること。</p>						
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性や実習生としての自分の動き等を日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入するとともに、次の日の実習のねらいを立てる。 3. 指導案等の実習指導計画を作成する。 <p>以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。</p>						
使用テキスト							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
	詳説 幼稚園教育実習	森元 眞紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円		
使用テキスト：自由記載							
参考図書							
	書名	著者	出版社	ISBN	備考		
	幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円		
参考書：自由記載							
その他							
備考	令和4年度改訂						
注意事項							

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭としての実務経験（18年）を有する。
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	有
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	幼稚園教諭・園長代理としての実務経験（7年）を有する。
実務経験を いかした教育 内容	幼稚園での実務経験（18年）をもつ教員を中心に、実習の巡回指導を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 幼児理解	保育現場での課題等を踏まえながら、幼児を理解することの意義と重要性について適切に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について、自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	2. 幼児教育・保育に対する理解	保育現場での課題等も踏まえながら、幼児教育・保育の意義と重要性について保育現場での課題等も踏まえながら適切に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について、自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	3. 実習日誌・指導案等の記述	実習日誌、指導案等に、担当教員の指導を踏まえた上で、発展的に記述できている。	実習日誌、指導案等に、担当教員の指導を取り入れ、適切に記述できている。	実習日誌、指導案等に、担当教員の指導も取り入れて記述できている。	実習園での実習日誌、指導案等を丁寧に記述している。	実習園での実習日誌、指導案等の記述が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
思考・問題解決能力	1. 指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
思考・問題解決能力	1. 指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で、指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
技能	1. 指導の技術	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助ができる。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助をしようとする。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示のもと、幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示があっても、環境構成や配慮、援助をしようとしていない。
技能	2. 事務処理	日誌等を期限を守って提出するなど、事務的な事柄を的確かつ迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど、事務的な事柄を迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど、事務的な事柄を処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出することができる。	日誌等を期限を守って提出することができない。
態度	1. 実習態度	実習意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	実習意義や実習生としての立場を理解し、責任をもって実習をすることができる。	守秘義務等、実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	担当教員の指示を受けて、守秘義務等、実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	守秘義務等、実習生として留意する事項を遵守できない。
態度	2. 実習意欲	積極的に幼児の中に入っていき、意欲的・主体的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていき、意欲的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていき、実習に取り組むことができる。	担当教員の指示のもと、幼児の中に入っていき、実習に取り組む。	担当教員の指示があっても、幼児の中に入っていき、実習に取り組むことができにくい。
態度	3. 協調性	積極的に周りの動きや状況を察知し、自分の役割を考えながら担当教員等と協力して行動することができる。	積極的に周りの動きや状況を察知し、担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができにくい。

科目名	教育実習指導 1クラス		授業番号	EF310A	サブタイトル				
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習	必修・選択	選択
授業概要	<p>幼稚園教育実習への意欲を高め、これまで学修した知識・技術等を生かしよりよい実践をしようとする態度や実習生としての心構えについて説明する。実習中の生活を学生がイメージできるよう、実習に向けての準備、実習中の生活の流れ、提出書類（日誌や指導案）の作成方法等に具体的に教授する。実習についての基礎・基本を大切にしながらも、実習園や実習地域によって実習の実態等が異なることもふまえ、学生個々の学習進度や到達目標等に合わせた指導を行う。実習終了後は実習の振り返りやグループ討議、報告会、事後面談を行い、幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。</p>								
到達目標	<p>実習前には実習生としての態度や心構え、指導案や日誌の書き方、教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに、実習での学習の成果のまとめと発表をし、自己課題を明確にできる。以上のことを目指す。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	教育実習の目標と意義を理解し、教育実習に向けての計画と準備を行う								
第2回	幼稚園教育、教師の役割、幼児の実態について理解する								
第3回	実習に対する課題を作成する								
第4回	園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける								
第5回	教育実習日誌について① 日誌を書くこと（記録をとること）の目的を理解する 時系列型の日誌について、目標の立て方、一日の流れ、反省・考察等の記入方法や留意点を知る								
第6回	教育実習日誌について② 時系列型以外の日誌について、主にエピソード型、ドキュメンテーション型の日誌の記入方法や留意点を知る								
第7回	指導案について① 指導案を作成する意味を理解する 絵本の読み聞かせ・昼食場面の部分指導案を作成する								
第8回	指導案について② 学級別活動の部分指導案を作成する 全日指導案の書き方を知る								
第9回	実習の実際について 園での実習生としての生活の流れ、出勤から退勤までの流れを知る								
第10回	教育実習直前オリエンテーションを受け、実習への意欲を高める								
第11回	実習を振り返る① 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する								
第12回	実習を振り返る② 幼稚園教諭の役割と援助について理解する								
第13回	実習を振り返る③ 反省及び自己評価を行う								
第14回	実習を振り返る④ 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する								
第15回	教育実習のまとめ 実習報告会を行う 事後面談を通して自己課題を明確化する								
授業計画 備考2	注) 第2～10回の授業のうち、時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、協力する態度、授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。						
	レポート	80	実習での学びに関する課題を、決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする。						
評価の方法：自由記載	テーマレポートの評価を80%、授業態度を20%の割合で評価する。								
受講の心得	実習に取り組むに当たっての課題を決定し、その準備をする。提出物が多いので、提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。								
授業外学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおき、疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 これまでの実習等の経験もふまえ、弾き歌いのためのピアノ練習、保育教材の作成、指導案作成等を積極的に行うこと。 その他、実習に向けての準備を主体的及び計画的に行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	段階を追ってポイントが分かる必携 幼稚園教育実習	森元 眞紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	2100円				

使用テキスト：自由記載

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の实務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての実務経験（18年）及び実習生を指導した経験（16年）を生かし、教育実習に向けての心構えや準備、日誌の書き方等について実践的かつ具体的な指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 幼児教育施設（幼稚園・幼保連携型認定こども園）に関する知識	幼児教育施設に関する具体的な知識を深く習得している。	幼児教育施設に関する具体的な知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識の習得が不十分である。	幼児教育施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2. 教育実習に関する知識	教育実習に関する具体的な知識を深く習得している。	教育実習に関する具体的な知識を習得している。	教育実習に関する知識を習得している。	教育実習に関する知識の習得が不十分である。	教育実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3. 自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的なかつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的なかつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1. 課題への対処	教育実習中の課題について、幼児の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。教育実習中の課題について、具体的なかつ適切な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について、幼児の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。教育実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について、背景を推察し、解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について、背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	教育実習中の課題について、背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	1. レポートの作成・提出	提出期限を守り、決められた様式に従い論理的なレポートを作成するとともに、他者に分かりやすく発表することができる。	提出期限を守り、決められた様式に従ってレポートを論理的に作成できる。	提出期限を守り、決められた様式に従ってレポートを作成することができる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが、誤字脱字が見られたり、決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。
技能	2. 自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができるが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
態度	1. 課題への取り組み	課題の意図を理解し、幼児教育施設/教育実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。幼児教育施設/教育実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは、課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できていない。
態度	2. グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3. 主体的な取り組み	実習園や担当教員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当教員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業番号	EG401A	サブタイトル	
教員	土田 豊、藤井 裕士、清水 憲志、福澤 惇也、荒谷 友里恵					
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態
						演習
						必修・選択
						選択
授業概要	2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して、学生が修得してきた知識・技能を点検・確認するとともに、不足している知識・技能を補充・向上させ、保育・教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2 保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3 保育を取り巻く環境の変化について理解し、実践的に保育に生かすことができる。 4 仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し、実行できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する (履修カルテ自己評価表を基に自分に欠けていることの確認)					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第2回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(1)					清水 憲志
第3回	現代の乳幼児保育の課題「保育者の役割」(2)					清水 憲志
第4回	災害時の対応について考える					荒谷 友里恵
第5回	保護者支援のあり方を考える (1)					福澤 惇也
第6回	保護者支援のあり方を考える (2)					福澤 惇也
第7回	地域連携のあり方を考える(1)					土田 豊
第8回	教諭としてのあり方を考える					藤井 裕士
第9回	小学校への連携について考える					土田 豊
第10回	模擬保育準備 (1)					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第11回	模擬保育準備 (2)					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第12回	模擬保育準備 (3)					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第13回	模擬保育実施					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第14回	模擬保育振り返り					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
第15回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する (履修カルテ自己評価表を基に自分に卒業後の自分の課題の確認)					土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
授業計画 備考2	実践演習全体の反省・評価・第1回目にもった課題の達成度を振り返る					担当：土田 豊 藤井 裕士 清水 憲志 荒谷 友里恵 福澤 惇也
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	50	グループ討議には意欲的に参加し、友人と協力しようとする態度で授業に参加している。			
	レポート	50	授業ごとに学びをまとめ、時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で、すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
評価の方法：自由記載						
受講の心得	授業は演習形式で行われるので、学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し、保育士・幼稚園教諭として求められる諸資質について、グループ討論・ロールプレイ等を通して、自ら主体的に考えていくようにする。受講前には、履修カルテ(2)を必ず記入しておくこと。					
授業外学修	授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み、知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
使用テキスト：自由記載	適宜、参考資料をプリントし、配布する。					
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領』、文部科学省、平成29年度版 『保育所保育指針』、厚生労働省、平成29年度版					
その他						
備考						

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	幼稚園教諭(福澤惇也) 特別支援学校教諭(藤井裕士)
担当教員 以外で指導に 関わる実務 経験者の有無	有
担当教員 以外で指導に 関わる実務 経験者	小学校教諭
実務経験を いかした教育 内容	保育所・幼稚園と小学校の連携に関して、学生の疑問に答え指導する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 保育場面における災害時の対応について理解できている。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について具体的に考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有しているが、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない場合がある。	保育場面における災害時の対応に関して十分な知識を有しておらず、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない。
知識・理解	2. 現代における保育者の役割について理解できている。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について具体的に考えることができる。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有しているが、子どもへの援助法について考えるに至らない場合がある。	現代における保育者の役割に関して十分な知識を有しておらず、子どもへの援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	3. 保護者支援のあり方について理解できている。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について具体的に考えることができる。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有しているが、個別性に配慮した応対策についてまで考えるには至らない場合がある。	保護者支援に活用できる知識を十分に有しておらず、個別性に配慮した応対策について考えが及ばない。
知識・理解	4. 地域との連携の仕方について理解できている。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について具体的に考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有しているが、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して十分な知識を有しておらず、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。
知識・理解	5. 就学後教育(小学校)への接続や連携について理解できている。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について具体的に考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して知識を有しているが、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない場合がある。	就学後教育(小学校)への接続や連携に関して十分な知識を有しておらず、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない。
思考・問題解決能力	1. 適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	1. 災害対策の環境構成ができる。	災害時の対策において、豊富な知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しているが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しておらず、適切な環境構成を行うには至らない。
技能	2. 対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手との意思疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。
技能	3. 子どもの成長に関して就学後を見据えた長期的な計画を立案できる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を具体的に立てることができる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えてはいるが、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない場合がある。	子どもの成長や発達に関して十分な知識を有しておらず、就学後までを長期的に見据えることが困難である。そのため、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない。
態度	1. 授業や課題に対して真摯に向き合うことができる。	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが、自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できず、自分なりの意見もない。
態度	2. グループ活動の中で自身の役割を全うできる。	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかが十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかが発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。